

音源の比較試聴(51)

—ラフマニノフのパガニーニの主題による狂詩曲—

1. 始めに

前報(50)に引き続き、各種音源の再生経路に関する仮想アースとアースアキュライザーや OPT ISO BOX や LAN iPurifier Pro などを含む種々の対策の効果の確認のため、各種音源の比較試聴を実施します。

2. 音源の比較試聴の試聴方法と音源

アナログ関係の対策の経過は前報(27)でも延べたとおりで、配信や CD 再生の光アイソレーションなどの対策は fidata HFAS1-S10 の活用シリーズや OPT ISO BOX の導入シリーズや LAN iPurifier Pro で報告してきました。

今回、同じ曲のアナログ盤と STAGE+からの配信を比較試聴します。

アナログ盤は下記を使用します。

CBS Sony FCCA 477

セルゲイ・ラフマニノフ パガニーニの主題による狂詩曲
フィリップ・アントルモン (ピアノ)
ユージン・オーマンディ指揮フィラデルフィア管弦楽団

LONDON SLA1033

セルゲイ・ラフマニノフ ピアノ協奏曲第2番ハ短調
ウラディーミル・アシュケナージ (ピアノ)
アンドレ・プレヴィン指揮ロンドン交響楽団

配信は STAGE+から上記と同一の曲を選択します。

セルゲイ・ラフマニノフ パガニーニの主題による狂詩曲
ダニール・トリフォノフ (ピアノ)
ヤニック・ネゼ=セガン指揮フィラデルフィア管弦楽団

セルゲイ・ラフマニノフ パガニーニの主題による狂詩曲
ユジャ・ワン (ピアノ)

グスターボ・ドゥダメル指揮ロサンゼルス・フィルハーモニック

それぞれの音源は、下記の経路で聴いていきます。

アナログ盤

LINN LP-12→ZANDEN Model 12→Brooklyn DAC+→TruPhase
STAGE+

ルーター→スイッチングハブ→PC→Brooklyn DAC+→TruPhase

3. 音源の比較試聴結果

アナログ盤は、レーベルに対応したイコライザー特性で聴いていきます。

アナログのアントルモンとオーマンディ指揮フィラデルフィア管弦楽団の盤は、アントルモンのピアノもオーマンディ指揮フィラデルフィア管弦楽団も響きが豊かで、躍動感もあり、時として、よく歌いロマンチックな詩情すら漂わせるところがあります。アシュケナージとプレヴィン指揮ロンドン交響楽団の盤は、小気味よいところもありますが、演出過剰のところもあり、ラフマニノフらしいロマンチックな表現に届かないところあります。

STAGE+のトリフォノフとネゼ=セガン指揮フィラデルフィア管弦楽団の演奏は、トリフォノフ一流のトリフォノフ節といていいほど、自由奔放なフレージングで、上記の演奏とは一味も二味もちがった演奏です。

STAGE+のユジャ・ワンとドゥダメル指揮ロサンゼルス・フィルハーモニックの演奏は、ユジャ・ワンの技巧的で疾走するようなピアノリズムで、ドゥダメルの指揮もこれに呼応しています。

4. まとめ

アナログ再生と STAGE+からの配信を比較してみましたが、これまでの対策で、すべてにおいてレベルが向上しており、以前のような格差がなくなっており、収録年代や収録環境および演奏家の演奏に関する幅広い個性的な解釈と技巧があることが分かりました。

以上